
メルマガ

NPO 法人市民福祉団体全国協議会・復興支援事務所
NO.18 (2013年3月1日発信)

しっかい！

歩もう	つながろう
支えよう	広げよう
学ぼう	増やそう

★被災地関連情報★

引き続き募集中です！
問い合わせは連絡先へ直接行ってください。

【山元町仮設の女性グループ支援】 中古ミシン提供募集！
連絡先[ささえ愛山元・中村怜子 080-3031-5722]

2年目の3.11を前に

藤田 佐和子

「故郷、去るか残るか」～暮らし再建、見通せず～

という見出しが、3/1付けの河北新報1面を飾っています。津波による浸水で危険区域と判定された地域の人達は、帰りたくても帰れず、故郷を去って新天地で生活していくしかありません。しかし危険区域外と判定された人々は、元の場所に戻って自力再建するか、故郷を離れた移転先でそのまま暮らしていくか、震災から2年経過した今、決断を迫られています。

先日も、仮設住宅でお茶飲みしながら聞いていると、「宅地の買い上げ率が70%なのに、集団移転先の宅地は高く、とても手が出ない…」「浸水した1階を修理したから住めるようになったが、周囲の隣人が帰って来ないので、防犯のため夫だけ夜に帰っている」という話をしていました。またあるとき、「夏頃、集団移転先に引っ越す予定なんだ～」とAさんが呟いた途端、隣にいた人がボソッと「じゃ、同じ町内会でなくなるんだ～」と寂しげに呟いていました…。

仮設はあくまでも臨時の住まい。でも2年近くも一緒に生活していると疑似家族のようになって、何かと声をかけ合い支え合って暮らしていることが感じられます。最後の1人が旅立ち、仮設が撤去された時を終了だとすれば、後2～3年のサポートが必要のようです。



しかし、復興支援事務所は3月末で「新しい公共のモデル事業」を終え残務整理をした後、規模を縮小し、私も今回の被災者支援というボランティア活動をひとまず終了する予定です。この2年間、ひたすら走ってきましたが、ちょっと立ち止まり、いま一度「何が出来るか、何をしたいか」、考えてみたいと思います。

これまでの数々のご支援・ご協力に感謝しますとともに、被災地はまだまだ皆様方からの温かいご支援や手を必要としていますので、引き続きのご支援を宜しくお願いいたします。事務所でも、活動報告書作成の合間を見ては、これからが本当に必要とされる喫茶（傾聴）活動を継続するために、内閣府や各種民間団体の助成金情報を検索し、助成金獲得に向けて動いているところです。

以下に、かかわっている仮設や市民協関連地域の3.11メモリアルデー直前の情報をお伝えします。

《扇町1丁目仮設》

私も参加しますが、「おにぎり会」でカフェ活動しながらローソク作りをします。協力はPOSSE（移動サービス）、PSC（見守り）、東北学院中・高等学校。

14:46に黙とうし、夕方からローソクに灯りを点して、亡くなられた方々のご冥福とこれからの希望を祈ります。

《若林ニッペグラウンド仮設》

旧町内会単位で集まり、市民センターやお寺等で慰霊や供養を行うようです。

《グリーンタウンやもと》

東松島市の合同慰霊祭やお墓参りに出かける人が多いので、自治会としては何もしない。

《伊藤寿美子さん（東松島市）》

最近の東名町は、日曜ごとに各地で慰霊祭やお寺での供養が行われ、また学校の統廃合に伴う閉校式に立ち会うことも多く忙しくしているが、5月5日に第3回「走れ仙石線」のイベントを行うので、ぜひ参加してほしいと語っています。

《中村怜子さん（山元町）》

自ら被災しながらも精力的にパラソル喫茶活動をしていた中村怜子さん。一端、8月に活動を終了したのですが、再開してほしいという仮設住民の声を聞き、9日（土）に喫茶活動を開始予定。デイサービスをしているため忙しいが、年4回（春夏秋冬）ぐらいは活動していきたいと語っています。



市民協・いしのまきハウス

2年目の3.11を迎えるにあたり、まだまだ「復興への道遠し」と感じている市民協・いしのまきハウス代表伊藤寿朗さんからのレポートです。

- 最近の話題として、石巻市において復興公営住宅の第1回申込が40戸を対象に行われたのですが、申込対象者の条件が厳しかったためか、申込者が半分にも満たなかったとのこと。この復興公営住宅の建築目標は25年度末：169戸、26年度末：2,000戸、27年度末：3,300戸、28年度末：4,000戸ですが、土地の取得が難航しているようです。
- もう一つの話は、みなし仮設住宅約4,500世帯の内、65歳以上で独居、又は、夫婦2人暮らしは523世帯ですが、訪問員の訪問を希望するのは280世帯で、必要な情報が徹底しないとされています。また、みなし仮設住宅へ入居できる期間が2年から3年に延期されましたが、宮城県と大家さんと入居者の3者契約に基づいているため、大家さんの都合で3年を保障できない問題がでてきていると報道されています。

古賀レポート(2月)

古賀 久恵

■驚きのストレス発散方法

被災地の女性たちの中での編み物人気はまだまだ続いています。

仮設住宅で出会った女性たちは「ここの目の増やし方がわからなくてヤサシクなかった(大変だった)」と言いながら編みあがった帽子などを楽しそうに見せてくださったり、アクリルタワシなどの小物については「作りすぎてあげる先がなくて」と言って、プレゼントしてくださったりします。

楽しい声をたくさん聴く中、先日、ある仮設住宅で出会った40~50代の女性は、「セーター編んでんだけどお全然完成しないの。だってえ編み物が出来上がるとすぐに解いて、また別のもの編むの。子どもからは「おかあさん、いつできんの？」って言われるんだけどお。わたしい編んだやつおお“解く(ほどく)”のが楽しいのお。ストレス解消っていうのお？気持ちのスッキリになるんだよお。」

※方言が強いため口調が優しく聞こえますが、編んだセーターなどを全部解くのがストレス解消になるというのは、想像できない方法でした。

■集会所には行きたくないと話す中年女性たち

集会所はばあちゃんたちがいつもいるから、わたしらの行くところないんだよね。グループができてから、入りにくいんだ。

■「新しい公共の場づくり事業」宮古市の途中報告

NPO法人ふれあいステーション・あいが申請主体となり、NPO法人紫波さぶり、市民協（担当：古賀）、宮古市が協働した事業。本事業では、月に1回必ず市の職員、3つのNPOが会議に同席し情報交換や課題の共有、課題への対策を立てるなどの協働の形をとることができました。市の担当者からも協働のモデルケースになると好評をいただきました。

岩手県では2月2日に「新しい公共の場づくり事業」の途中報告プレゼンテーションがありました。報告会当日、古賀は東京での「ソーシャルアクションフォーラム」の手伝いのため同席できませんでした。以下、報告会を傍聴した人からのコメントです。

- ・ふれあいステーション・あいの新しい公共事業専任スタッフがパワーポイントを使ってプレゼンをした。その日の発表の中で一番立派な発表だった。
- ・申請内容の履行、報告としてのまとめ、質問への真摯な答えなど素晴らしかった。

■「新しい公共の場づくり事業」実施中の団体の方、報告書作成前に再確認を！

行政から推薦状をもらっているにも関わらず、その行政と協働していない事業も少なくないようです。新しい公共事業の概念、申請書で申請した内容を再度確認してから報告書を作成することをお勧めします。

【2月パライソル喫茶実施報告】

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
			すみちゃんの家	さくら会 JR南小泉		
10	11	12	13	14	15	16
すずめの宿・七郷中央公園仮設&2号公園仮設			NALC・仙台港背後地6号公園 中野仮設	NALC・荒井小用地仮設		
17	18	19	20	21	22	23
	仙台傾聴の会 扇町1丁目公園		すみちゃんの家	さくら会 卸町5丁目	男の台所 扇町1丁目公園	はまどらる 七郷中央公園仮設
			NALC・福田町南&岡田西町	NALC・七ヶ浜第一スポーツ広場仮設・七ヶ浜中学校第2グラウンド		
24	25	26	27	28		
	はまどらる 扇町4丁目仮設					